

ご意見を聴く会in青森に寄せられた意見(当日発言希望の有無の両方を含む)

	見直しの 必要性	理由
1	必要性あり	見直しが必要だと思います。 青森県八戸在住の主婦です。今青森県は英仏両国からの返還低レベル放射性廃棄物受け入れ問題で、三村知事は週内にも表記するという。私は7月24日に八戸市で開催された説明会に参加しました。県からの説明会が今までアクティブ試験以来なかったので、色々聴きたいことがあったので良い機会だと思い参加した所、多くの方に発言して頂きたいという理由で、司会者から一人一問と前もって注意があった。 私は日頃、一番恐怖に思っていたことを質問した。ガラス固化体の寿命について、「30年から50年持つと言われているが、海外などで30年もったガラス固化体はあるのか」聴いた所まだないという。もう一人の回答はもつはずだという仮定の話でした。それなのに青森県は最終処分地を平成40年までに決定しようとしている。この危うさ日々の暮らしさえ不安を感じている。現在六ヶ所には、すでに1338本のキャニスター保管されている。(6月末)古いものはすでに15年以上経過しているという。 「原子力発電で本当に私たちが知りたい120の基礎知識」 広瀬隆・藤田祐幸著・・・P149にはキャニスターの寿命は長くて数十年以内という短期間で、金属容器が破壊し始めたときから、大汚染が起こりはじめるのである。・・・述べられている。 核燃サイクルもうまく軌道していない。別のエネルギー利用を考えて欲しいと本当に思います。青森県をこの美しい自然を誰か助けて欲しいと毎日願い祈っております。
2	必要性あり	基本的方針にブレはないと思うが、現状を踏まえ、地球温暖化の観点から等、当時と異なった観点からの見方や実状を反映するべきである。
3	必要性あり	原子力政策大綱なるものの原本がほしい。(本物をみたことない) 原燃が何回となく事故を起こし何等事業の進展が見られないので政策に賛成派の我々もこの様な機会に出席したいという思いです。 因に私は建設関係の行政にいた者として又六ヶ所の工事に関与した者として建設的な意見としたいという事です。この程度の事での参加であれば意見は不要ということであればそれで結構です。
4	必要性なし	私は、「六ヶ所村読書愛好会」という女性団体に所属し、読書を通じ、また文(ふみ)に化す(書く)ことの意義を踏まえながら様々な活動を行っています。 私たちは活動を通じて、原子力の必要性・安全性について理解を深めてきましたが、原子力に対する一般消費者の理解が不足していることを未だに痛感しております。国には引き続き、解り易い情報提供を含めた広報活動をお願いします。 地元、六ヶ所村の再処理工場は最終段階で苦勞していますが、安全第一、一步一步確実に日本独自の技術を確立し、原子燃料サイクルの実現に向けて努力していただくようお願いいたします。 高レベル放射性廃棄物の最終処分場の選定も苦慮されていますが、国にはこれまで以上に率先して取り組んでいただきたいと思います。
5	必要性あり	原子力発電や原子燃料サイクルの基本的な方針は変えるところはないと思いますが、最近の原子力の国際的な動向への対応など、情勢変化があった部分は見直しについて検討する余地があると思います。
6	必要性なし	エネルギーの話を色々な方とお話すると、一般の方の関心が低いことに驚かされる。我が国のエネルギーのことについて国民全員がもっと関心を持って考えるよう、国としてもっとしっかりと広報を行うことが必要と考える。
7	必要性なし	基本方針は維持して、各項目について現状を踏まえた修正を加えれば良い。
8	必要性あり	見直しの理由■原子力による発電は中期的、過渡的なものと考えます。早く終了し、現時点までの放射性廃棄物の処理についての国民的合意形成を、はからねばなりません。しかし現大綱は再処理と高速増殖炉前提であり、この枠組みを変えるべきです。 見直しの意見■プルサーマル推進及び使用済み燃料の中間貯蔵を中止し、高速増殖炉実用化及び第二再処理工場計画は放棄することを大綱で明示すべきです。各原発サイトで発生した使用済み燃料は、各原発サイトでの保管を原則とした体制を大綱で提言すべきです。地層処分を含めた放射性廃棄物処分は、埋設から管理への方針転換を提言すべきです。 ■最終処分問題が日本国内で解決できていないにもかかわらず、大綱で国際貢献・国際展開を主張するのは誤りです。成長に向けての原子力戦略の誤りを大綱で正すべきと考えます。

	見直しの 必要性	理由
9	必要性なし	二度の石油ショックの時に、私は、諸物価の高騰、それによる工事中断等を体験している。その教訓で、日本は、原子力開発、原子燃料リサイクルを進めてきたはずである。原子燃料をリサイクルし、エネルギー自給を高めることは大切なことと考える。この流れを止めてはいけなし、現在の原子力大綱の内容を着実に推進するべきである。また、原燃のガラス溶融炉技術は国産技術と聞いており、完成すれば、青森から世界に向けて、売り出すことのできる技術ではないか。いろいろな試行錯誤の結果成功した、宇宙船「はやぶさ」のように、新しい技術は、あわてないで、じっくり時間をかけて、試行錯誤の末、完成するものである。せっかく積み上げてきた技術を投げてはいけなし。安全確保に留意し、是非技術の完成を目指してほしい。
10	必要性あり	環境問題の勉強をしている時に、エネルギーのことが気になり、国で推進している原子力のことを学び始めました。今、地球全体で問題になっている、地球温暖化を防ぐためにも、クリーンエネルギーが必要です。ただ、太陽光や風力発電のような自然エネルギーは、安定供給ができないということがネックになっています。その点原子力は、燃料の再利用ができることから、この先長く安定供給が望めるエネルギーだと思います。国も二酸化炭素削減の高い目標を掲げているのですから、原子力発電をもっと取り入れてもよいと思います。ですから、2030年以後も、総発電電力量の30～40%というのは、少ない気がします。あと1割増は不可能なのでしょうか。また、原子力を進める上で切り離せない、放射性廃棄物処理の問題ですが、いつまでに最終処分地の選定をするのか、もっと具体的に示して欲しいと思います。
11	必要性あり	核燃料サイクルの破綻について
12	必要性なし	六ヶ所再処理施設もほぼ見通せる段階にきており、第二再処理の検討を予定どおり開始いただけるのであれば、現政策大綱に変更はなく、見直す必要はないと考えます。
13	必要性あり	・基本的な部分を変える必要がないが、日本の国際戦略を検討して大綱に盛り込む必要がある。 ・地球温暖化対策等のために、将来の電源構成を設定する必要性が高まっていることから、エネルギー基本計画やCO2削減中期目標などと整合性の取れた「原子力の数値目標」を設定する必要がある。
14	必要性なし	大綱の全体像の見直し、言わばモデルチェンジの必要はないと思うが、海外原子力事業への参画等の最近の情勢変化に対応して、マイナーチェンジは行うべきと考える。
15	必要性なし	六ヶ所村で事業を営んでいる者としては、今後も安全の確保を大前提として、核燃料サイクル事業が確実に進展すると同時に、なお一層の拡充が行われることで、村だけでなく、県全体も恒久的な発展を続けることができるものと考えております。そのためには、現在、再処理工場の操業が遅れているなど、今後も難しい課題が生じることもありますが、国としても核燃料サイクル路線を堅持し、政権が交代しようが、決して揺らぐ事の無いよう、確固たる信念で方針を貫いて頂きたいし、できればその担保としての、国の宣言のようなものを実施していただきたいと考えております。
16	必要性なし	今、世界では原子力カルネサンスと言われているように、エネルギーセキュリティー確保の意味から原子力発電の有効性が大きく見直されている。 また、海外への原子力発電プラントの輸出についても、国家を上げて受注獲得に向けた競争が激化している。 このため、原子力の研究、開発及び利用に関する基盤的活動の強化は、とりわけ重要な取り組みとして継続する必要がある。 さらには、核燃料サイクル技術の確立も、原子力の利用には欠かせない重要な取り組みである。世界でもこの技術を確立している国は英仏の二カ国であることから、日本独自の技術確立は「国の宝」であるという思いで、じっくりと取り組むべきである。
17	必要性なし	・原子力政策大綱の見直しの必要性はない。 ・現在、六ヶ所村の再処理工場はアクティブ試験中だが、工程を急ぐ必要は無く、安全を第一義に、ゆっくり時間をかけて取り組むべきと考える。 ・来年から放射線が中学校の教科書に掲載される。放射線に関して現場が偏見を持たず教えられるように、教員等への情報提供も含め、原子力委員会としてきめ細かい対応が望まれる。

	見直しの 必要性	理由
18	必要性なし	<ul style="list-style-type: none"> ・地球温暖化や発展途上国の経済発展によるエネルギー需給逼迫を踏まえると今後の原子力開発はなくてはならない。 ・国は、国策として原子力平和利用を進め、原子燃料サイクルの完結に向け強いメッセージを国民に示す必要がある。 ・国はグローバルな視点に立ち、国民に対しエネルギー状況を伝え、今後、日本が経済成長し国民が豊かな生活を享受し続けることができるように世論形成を促すべき。
19	必要性なし	<ul style="list-style-type: none"> ・最近の国や事業者の姿勢は弱腰に見える。このような態度は、国民からすれば、自信がぐらついているように見え逆に不安感を与えかねない。 ・国民からすれば国も事業者も謝罪している姿しか見えず、原子力委員会は、国や事業者が元気ある姿を見せるよう努力すべき。
20	必要性なし	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、六ヶ所村の再処理工場がガラス溶融炉の不具合が相次いでいるが、事業者は工程を急がず時間をかけて試験を進めるべき。 ・原子力に関しては、事業者からの情報公開が相当程度進んでおり、どんな小さなトラブルも公表されている。原子力委員会はそのような事業者の取り組みを評価し、むしろ積極的に情報公開がなされているということの評価をする必要がある。
21	必要性なし	<ul style="list-style-type: none"> ・最近のエコブームにより、一般の方々は消費電力の全てを風力、太陽光などの新エネルギーで賄えると思ってしまう人が多い。しかし、世界のエネルギー需給を踏まれば原子力が基幹エネルギーであることは疑いがない。国はそのような現状をしっかりと国民に伝える必要がある。
22	必要性なし	<ul style="list-style-type: none"> ・高レベル放射性廃棄物の最終処分については国が責任を持って進めるべき。
23	必要性あり	<p>青森県は、原子燃料サイクルの根幹を成す施設が操業・建設されている。国策として意義のあることであると考えられ、引き続き大綱の議論を深め、その再認識をするのはどうか。再処理のトラブルがあったとしてもゆるぎない意義があるということ、「クサビ」を打って、確認する意味があると思う。</p>
24	必要性あり	<p>最近、地球環境面からさまざまな議論が行われていますが、今後原子力発電をどのように位置づけていくかを再確認して、必要があれば現在の大綱に反映すべきだと思います。</p>
25	必要性あり	<p>自国にエネルギー資源のないわが国にとって原子力発電や原子燃料サイクルの重要性は明らかである。国民全員に将来にわたって、安全に、安価に、安定かつ豊富に、エネルギーを供給する国や国民の責務をわかりやすく、曖昧さなく、しっかりと国民に伝え、政策に書き込んでほしい。</p>
26	必要性あり	<p>地球温暖化対策の観点から二酸化炭素の排出を着実に削減するために原子力や新エネルギーの重要性はより一層増してきていると思います。新エネルギーに関しては、将来の目標などの様々な議論が行われているように感じられますが、原子力に関しても、長期サイクル運転により設備利用率を向上させていくと言った話も出てきており、この機会に、現在の日本を取り巻く情勢を踏まえて、原子力の社会的な位置付けや、地球環境面から今後原子力をどのように進めていくかを再確認して、必要があれば現在の大綱の内容を改定すべきと考えます。</p>
27	必要性あり	<ol style="list-style-type: none"> 1. 原子力政策大綱を定めてから大きな情勢変化は認められないので、大改訂は必要ではないが、核燃サイクルを堅持する点からより強調して頂きたい点がある。 2. 原子力の必要性を明確に宣言する。 原爆の被害を受けた国民としてその痛みを世界に知らせ、その上に立って、地球環境と人類福祉のために原子力の平和利用が必要であることと、その実現のためになすべき核不拡散、安全確保、完結性の努力について、高らかに宣言するべきである。 3. 日本の安全規制を世界標準と整合させる。 UAEへの原子炉輸出の敗北の要因は国内安全規制が世界とかけ離れ、過剰規制になっていることの証左と言われている。安全性の重視と必要経費のバランスをとり、安全の世界標準に国内規制を合致させ、原子力技術の世界展開を図る上で各国との競争に不利な過剰規制を排し、安全上も経済性も優秀な日本の技術を世界に広めることは、日本の世界貢献の1つであり、使命である。

	見直しの 必要性	理由
28	必要性あり	<p>次期原子力政策大綱では、原子力の日本のエネルギー供給に占める割合を徐々に減らしていく方向とすべきである。その理由として</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 原発稼動を継続させるためには、核燃料サイクルの環が回る必要があるが、その見通しが無い。 2. 1の代替政策であるプルサーマルやフルモックスは、さらに処理が困難な高レベル放射性廃棄物を生み出すことになり、この問題への解答を我々はまだ手にしていない。 3. 高レベル放射性廃棄物の最終処分地の選定の見通しが無い。 4. 今後、地震等自然災害が老朽化した原子力施設に及ぼす危険性はますます高まると予想される。 <p>こうした中、今以上の原子力のエネルギー利用の拡大は、地球環境にさらに大きな負債を残す可能性が高い。放射能の無力化などの技術が確立され、人間への安全性が保障されるまでは、原発の増設はやめ、老朽化した原発は順次廃炉とし、代替エネルギーに変えていくべきで、この研究にこそ大きな予算を注ぐべきである。</p>
29	必要性あり	<p>核のゴミの処理処分方法を定めることなく原子力政策を進めてきたことは間違いである。今後も、同様の過ちをすることには賛成できない。</p> <p>現時点で、核のゴミの処理処分方法を定めることが先決で、それ以外の原子力開発を進めることは容認すべきではない。</p>
30	必要性あり	<p>原子力広報の在り方 原子力広報に関するあり方について、中学、高校からの普及啓発が必要である。また、一般向けの理解を深めるための啓発活動も肝要である。</p>
31	必要性あり	<p>地球温暖化対策の観点から二酸化炭素の排出を抑制するために原子力や新エネルギーはとて重要だと思います。新エネルギーに関しては、将来の目標などの様々な議論が行われているように感じますが、原子力に関しても、原子力の社会的な位置付けや、地球環境面から今後原子力をどのように進めていくかを再確認して、必要があれば現在の大綱の内容を改定すべきと考えます。</p>
32	必要性あり	<p>化石燃料の枯渇や二酸化炭素排出量の削減を考えれば、原子力を進めていくのは当たり前のことと考えています。</p> <p>しかしながら、小中高校での教育現場において原子力についてどのように教えられているのか、あまり話を聞くことがありません。</p> <p>日本の将来を考えて重要なものについては、しっかりと教育の場で取り扱い、そのメリットやデメリットなど教えていくことが必要だと思います。</p> <p>既にある程度は実践されているのかもしれませんが、そうした取り組みの必要性と具体的な方策などについて議論していただきたいと思います。</p>
33	必要性あり	<ol style="list-style-type: none"> ①核燃料サイクル政策を成立させるには、高レベル放射性廃棄物の最終処分事業が進むのかどうか見極める必要がある。少なくとも、概要調査地区の選定がなされるまでは、再処理事業の本格操業は中断すべきである。それだけの位置づけが求められている。 ②第二再処理工場は、使用済MOX燃料の再処理を扱うとしているが、そもそも、何回再処理が可能なのか、そのことへの答えがないまま、サイクル政策を掲げるのはやめて欲しい。 ③原発は、二酸化炭素を出さないといって地球温暖化対策の切り札として推進されるのは間違いである。原発推進を言うのなら、ウランでなくトリウム燃料の利用へ転換し、プルトニウムや超ウラン元素類と縁を切るべきである。